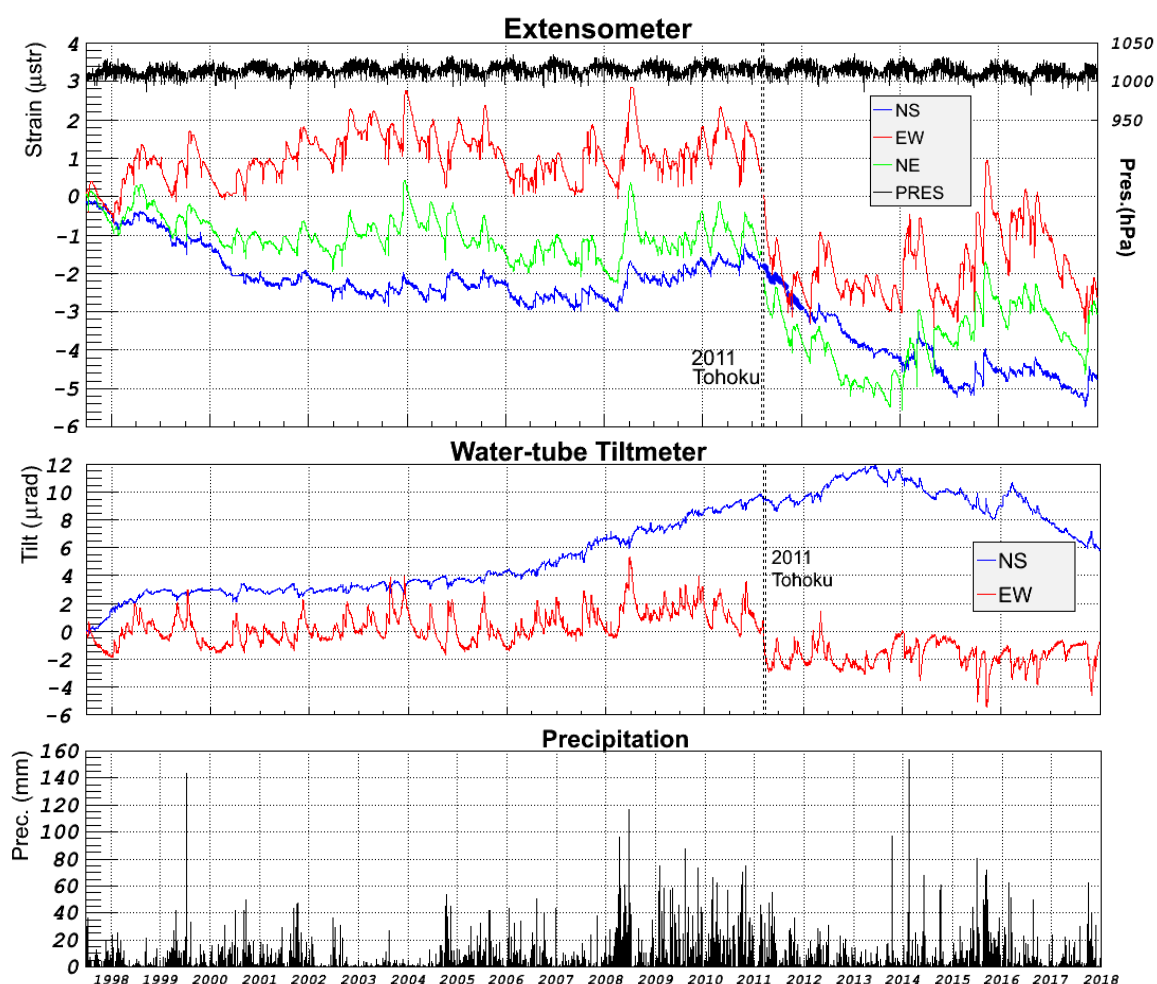


鋸山観測坑における地殻変動観測 (1997年～2017年)

Observation of Crustal Deformation at Nokogiriyama (1997-2017)

東京大学地震研究所観測開発基盤センター
東京大学地震研究所地球計測系研究部門
Earthquake Research Institute, the University of Tokyo

東京大学地震研究所鋸山地殻変動観測所では各種地殻変動観測を実施している(東京大学地震研究所 2016)。前報1)に引き続き、鋸山地殻変動観測所の観測坑で取得された記録について報告する。1997年7月11日から2017年12月31日までの期間で石英管伸縮計および90型水管傾斜計で得られた観測結果を図1に示す。図中、上段は歪三成分および大気圧、中段は傾斜二成分、下段は降水量である。歪、傾斜及び大気圧は24時間平均処理をしており、降水量は24時間の積算雨量である。



第1図 1997年7月11日から2017年12月31日までの歪、傾斜、気圧、雨量のデータ

上段:歪三成分 (NS, EW, NE, いずれも伸びが正)と大気圧

中段:傾斜二成分 (NS:N-down 正, EW:E-down 正)

下段:24 時間降水量

2011 年の東北地方太平洋沖地震の影響によるデータ欠測期間を破線で示した。

Fig. 1 Temporal changes of strain, tilt, atmospheric pressure and precipitation, from July 11th 1997 to December 31st 2017. Upper inset: three components of strain (positive for extension) and atmospheric pressure. Middle inset: two components of tilt (positive for N-down and E-down). Lower inset: 24 hour precipitation. The period of data missing after the 2011 Tohoku-oki earthquake is shown in the broken lines

参考文献

- 1) 東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター, 鋸山観測坑における地殻変動連続観測(1997年～2016年), 予知連会報, 98 巻, 143, 2017.